

コース名 発達保障実践論コース	2018年度回数 全10日10コマ	担当者 田村和宏
--------------------	----------------------	-------------

授業の内容

相談や教育や保育、高齢者や障害者を支える職場など、私たちの職場はより困難さを増してきています。

障害児者福祉の情勢を眺めてみると、コーディネーターによる相談機能の強化や緊急時の受け入れ対応・強化、体験機能の機能強化などが打ち出されたり、「障害児支援の適切なサービス提供体制の確保と質の向上」が提起されて、子どもに対しては前進面も多く見受けられます。一方で、定員20人の「ミニ入所施設」の容認、「自立生活援助」が新設されて、障害の軽い人たちは、一人暮らし支援という選ぶことのできない「安上がり」な方向が強められてきます。就労支援に関しても同じです。「就労継続支援に係る工賃・賃金の向上や就労移行、就労定着の促進に向けた報酬の見直し」がされ、労働時間が長ければ長いほど単価が高い、平均工賃が高ければ高いほど報酬単価が高いしくみが持ち込まれています。

また、一般就労に向けて、「就労定着支援」という新しいサービスが加わりました。一億総活躍社会においては、集団での支え合いや協力の中でつけてくる力や、働くことにむけて働きたいと自らが願うための力を育む実践には見向きもしない方向へ突き進んでいます。

今日の社会がますます「生活しにくい」「生きる喜びが味わえない」ものになっているといえるのではないのでしょうか。こうしたときに、私たちも悩む日々になっているわけですが、私たちがよりよい実践をすすめていくためには、どういう視点や力量が求められるのでしょうか。そんなことを身近な実践を報告しながら考えていきませんか。

このコースは、これまで若手の実践者であったり、ベテランの管理者であったり、教員であったり、保育士であったり、支援員であったりと、多様な参加者で構成されることが続いています。それぞれこのコースに期待するところも異なりますから、最小公倍数的な内容を設定してきたところもあります。今年度は、実践と関わって学びたい参加者の要求をベースにしつつ、毎回の半分は講義、半分は「私の実践報告」「私の問題関心」「私の悩んでいること」「私の施設の方向性」などなど参加者発信の時間にして組み立てていきたいと考えています。

したがって場合によっては、経験年数によるグループ分けにして、あるいは要求によるテーマ別グループでというような小集団学習ですすすめることもあります。とにかく柔軟に、みなさんの、今、実践現場でおこっている課題や問題や関心などに応えていけるようにしていきたいと考えています。

みなさんといっしょに作っていくコースになります。聞いているだけより、意見を出し合っって元気をつくる、そんな時間としていきたいと思っています。

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

- 第1回 6月 23日（土） pm（13時30分～16時30分）
- 第2回 7月 28日（土） pm
- 第3回 8月 25日（土） pm
- 第4回 9月 15日（土） pm
- 第5回 10月 20日（土） pm
- 第6回 11月 24日（土） pm
- 第7回 12月 22日（土） pm
- 第8回 1月 19日（土） pm
- 第9回 2月 23日（土） pm
- 第10回 3月 16日（土） pm

※なお、年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください。